利用者の判断能力見極めチェックシート（案）

利用者名（　　）　　月　　日（　　）

項　　目		チェック	特記事項
1	常に眠っている	はい ・ いいえ	
2	声をかけると目を覚ますが、すぐに寝てしまう	はい ・ いいえ	
3	話しかけても反応がない	はい ・ いいえ	
4	話しかけると多少の応答しかない	はい ・ いいえ	
5	たくさん話すが、自分の言いたいことだけで会話にならない	はい ・ いいえ	
6	手渡したものに興味を示さない	はい ・ いいえ	
7	訪問者が来ると視線を向けたり、見ようとする	はい ・ いいえ	
8	管理台帳を見せると、印鑑を押すことができる	はい ・ いいえ	
9	文字が書ける、または、書けないが人に代筆を頼むことができる	はい ・ いいえ	
10	「あんしんさぽーと」の役割がわかっている	はい ・ いいえ	
11	金銭などを渡した後で、渡したものの置き場所を覚えている	はい ・ いいえ	
12	生活支援員が訪問した理由をわかっている	はい ・ いいえ	
1～6　の「はい」の数			前回の数（　　）
7～12　の「いいえ」の数			前回の数（　　）

※次の項目は支援者に聞くこと

視力障がい・著しい視力低下　（ あり ・ なし ）

聴覚障がい・著しい難聴　（ あり ・ なし ）

腕や手指のマヒ・拘縮　（ あり ・ なし ）

本人の今日の体調　（ 良好 ・ 普通 ・ 不良 ・ とても不良 ）

チェック

利用者の判断能力見極めチェックシート　項目の解説

項　　目		解　　説
1	常に眠っている	声をかけたり、肩や手に触れても起きない。
2	声をかけると目を覚ますが、すぐに寝てしまう	声をかけると目を開けてはくれるが、持続できずにすぐに寝てしまう。何度も起こすが、そのたびに寝てしまう。
3	話しかけても反応がない	聴覚障がいや難聴はないことが前提。少しポンポンと肩を叩いたりすると反応があっても、声をかけただけでは反応がない。
4	話しかけると多少の応答しかない	話しかけると「ああ」「うん」などの応答があっても、それ以上会話が続かない。返答も「はい」「いいえ」を使い分けたりすることなく、いつも同じ。
5	たくさん話すが、自分の言いたいことだけで会話にならない	同じことの繰り返しや話の要点ではなく一部を述べるだけで会話にならない。こちらの話を聞こうとしないので会話がかみ合わない。
6	手渡したものに興味を示さない	お金や名刺などを渡しても手に持つだけ。目元に近付けて見ようとしたり、確認しようとする動きが見られない。
7	訪問者が来ると視線を向けたり、見ようとする	視覚障がいや視力低下がないことが前提。訪問者が部屋に入って近づくと視線を向けることや首を向けることがある。顔を近づけるときちんと視線を向ける。
8	管理台帳を見せると、印鑑を押すことができる	手指のマヒなどがないことが前提。印鑑と管理台帳を手渡すと朱肉をつけたり、押す場所を確認するなど、印鑑は押すものであることがわかっていて適切に使うことができる。
9	文字が書ける、又は書けないが人に代筆を頼むことができる	ペンを渡してサインを促すと書くことができる。マヒなどでペンが持てない場合には「代わりに書いて」と支援者などに自ら頼むことができる。
10	「あんしんさぽーと」の役割がわかっている	「あんしんさぽーと」または区社協の愛称や相談員・生活支援員の名前を聞き、そこが通帳や印鑑を管理していること、お金を代わりに支払うこと、本人に届けることなど、金銭にまつわる仕事をしているところであると理解できている。
11	金銭などを渡した後で、渡したものの置き場所を覚えている	金銭などを渡した後で「渡したものはどこにありますか」と確認。置き場所が思い出せる、または置き場所はわからなくとも何かを渡されたということは覚えている。
12	生活支援員が訪問した理由をわかっている	サービス後に「今日は私（生活支援員）は何をしに来たかわかりますか」と確認。生活支援員がお金にまつわる仕事をしていることが理解できている。または、お金を届けに来たなど、生活支援員が何をしてくれたのかを覚えている。
１～６　の「はい」の数		特別な事情（その日は特に疲れていた、体調が悪かったなど）がなく、１つでも「はい」がある状態なら相談員に報告
７～１２　の「いいえ」の数		特別な事情（その日は特に疲れていた、体調が悪かったなど）がなく、３つ以上「いいえ」がある状態なら相談員に報告

＊以下の項目は支援者に聞くこと

視力障がい・著しい視力低下　（　あり　・　なし　）

聴覚障がい・著しい難聴　（　あり　・　なし　）

腕や手指のマヒ・拘縮　（　あり　・　なし　）

本人の今日の体調　（　良好　・　普通　・　不良　・　とても不良　）